みんなで支える！ ケモノに負けない地域づくり

■問い合わせ　農林水産課☎ 64・6024

昨今の有害鳥獣による農林水産物への被害は全国的に大きな社会問題になっています。

小浜市では、平成7年ごろからシカの目撃情報が増え始め、20年にはシカによる農作物被害が一気に増加しました。そこで、21年度に「小浜市鳥獣害被害対策室」を設置して、本格的に有害鳥獣害対策を開始しました。

今回の特集では、10年前から取り組み続ける本市の対策や有害鳥獣による被害の現状、取り組みに関わる人の声をお知らせします。

被害がピーク時の10分の1に

市では、①猟友会による「捕獲・駆除」、②金網柵や電気柵による「侵入防止対策」、③侵入防止柵の維持管理や花火などを用いた追い払い活動など「集落主体の取り組み」の3本柱で対策を進めてきました（下表）。

これらの取り組みにより、平成20年度の農作物の被害面積および金額が58・0㌶／約1千740万円だったのが、30年度には3・9㌶／約98万円（NOSAIデータより）と、ともにピーク時の10分の1以下にまで減少しました。

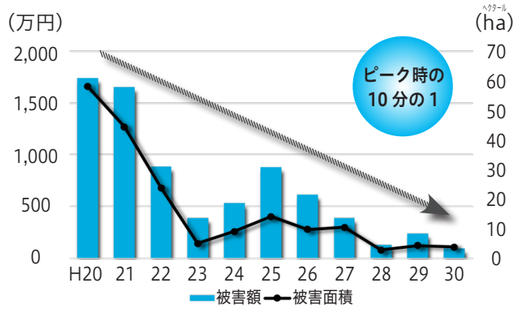
また、近年の有害鳥獣の捕獲状況（下グラフ）を見ると、すべての獣種で減少傾向にありますが、これは捕獲などの取り組みで生息数が減少してきていることや、獣がわなを学習してかかりにくくなっていることも要因のひとつと考えられます。

これまでの対策で被害防止の成果は出てきていますが、依然として被害が大きい地域もあるため、引き続き、地域・猟友会・行政で連携した取り組みが必要です。

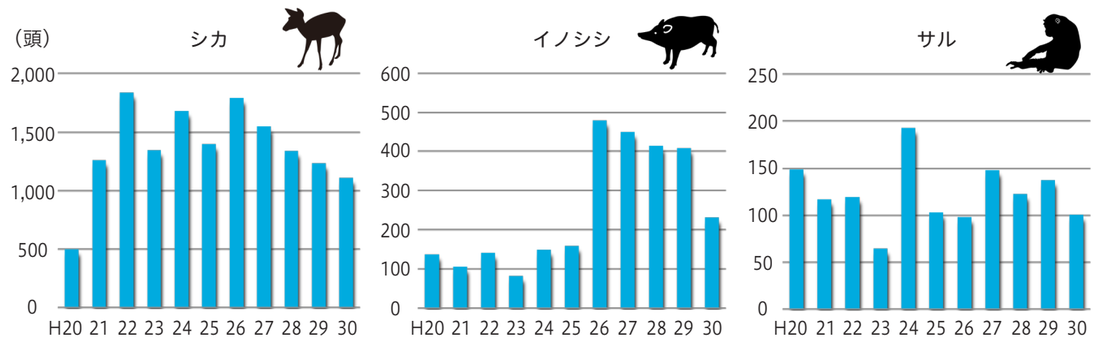
■鳥獣害対策の３本柱

対策	取り組み内容
猟友会による **捕獲・駆除**	有害鳥獣の個体数を適正にするために、継続して捕獲に取り組んでいくことが必要です。そのため、市では嶺南６市町で策定した「嶺南地域鳥獣害被害防止計画」（平成 28 年）に基づき、猟友会と連携して銃やわなによる捕獲を実施しています。
金網柵や電気柵による **侵入防止対策**	集落や田畑に有害鳥獣を近づけないために、計画的に侵入防止柵を設置することが効果的です。そのため、市では集落ぐるみによる整備を補助しています。
集落主体の取り組み	集落住民が自ら放任果樹の伐採や侵入防止柵の維持管理、花火を使用したサルの追い払いなどを行っています。

■市内の農作物被害面積・金額



■市内の有害獣捕獲状況



身近な自然環境にも大きく関わる鳥獣被害

奥山の県境付近では20～30年前から特にシカの目撃や被害が急増しており、平成10年ごろからは里山でも多く見られるようになってきました。生息数が多いときには、夜になると休耕地などに20頭以上ものシカの群れをあちこちで見かけました。計画的に有害鳥獣の捕獲に取り組んできた中で、現在ではそのような大きな群れは見られなくなり、特にシカの生息数は減少したと感じています。

また、自然環境面ではシカの食害などにより、山の下層植生が全体的に失われてきています。下木・下草がなくなると表土が流出し、山肌の腐葉土が流れてしまうため、植物が育ちにくくなり、大量の土砂が川に流れ込むことで、川に生息する魚も影響を受けてしまいます。

このように鳥獣被害は農作物だけでなく、自然環境にも大きく関わっているため、農業者だけの問題ではありません。有害鳥獣による被害を防止するためには、捕獲していくことも大切ですが、地域住民による追い払いや侵入防止柵の設置・維持管理など地域の取り組みが大事であると考えています。

猟友会の人に聞く

福井県 猟友会 小浜支部
大椿（おおつばき） 明夫（あきお） 支部長（61 歳・竜前）

自己防衛の徹底と行政との協力で鳥獣害を防ぐ

宮川地区の有害鳥獣による被害は、平成19年～20年ごろが一番多く、まったく収穫ができなかった田んぼが3㌶あるなど、米だけでも5割以上収穫量が減りました。被害は米や大豆、麦が特に多く、そのほとんどはシカやイノシシによるものでした。

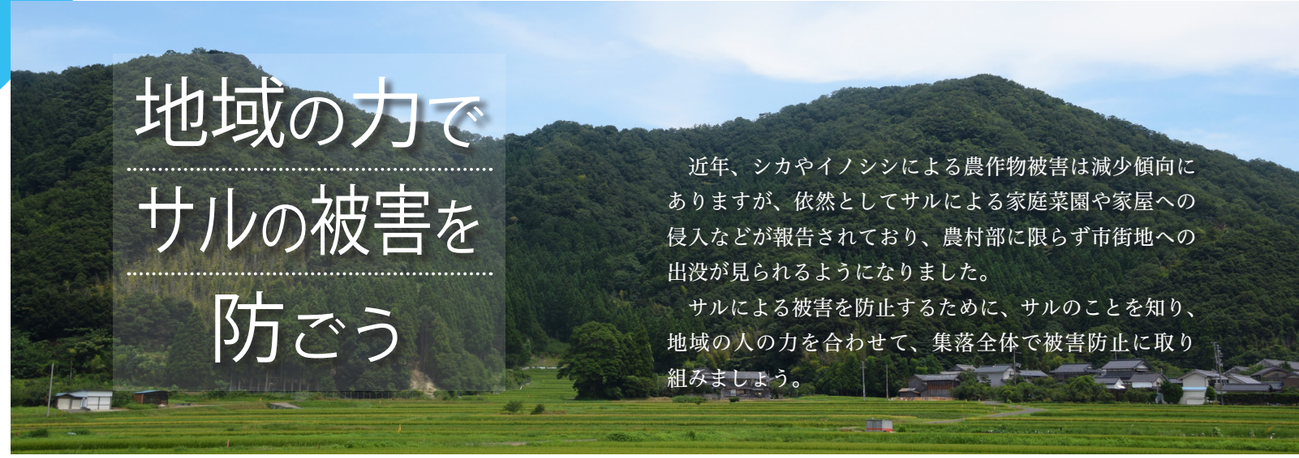
今では、有害鳥獣の捕獲の実施や侵入防止柵の設置から約10年が経過し、大幅に被害が減ったと実感しています。集落に出てくる個体も少なくなり、農作物の被害以外でも自動車との接触事故が減るなど、生活環境の面でも大変助かっています。

このような中、有害鳥獣の捕獲について、猟友会には最前線でお世話になっています。そのため、今後もシカやイノシシ、サルなどの出没情報や捕獲場所の提供などに協力していきたいと思っています。

獣害対策については自己防衛の徹底に尽きると考えています。猟友会の高齢化が進み、会員が減少している中、当社では若手の社員に狩猟免許を取得させるなどして、自分たちでできる対策を行いながら、今後も行政などと協力して獣害対策を進めていきたいです。

農業を営む人に聞く

株式会社 若狭の恵
前野（まえの） 恭慶（やすのり） 代表取締役（58 歳・加茂）／写真中
竹中（たけなか） 忠（ただし） 取締役（64 歳・加茂）／写真右
河原（かわら） 勝（まさる） 監査役（69 歳・本保）／写真左



地域の力でサルの被害を防ごう

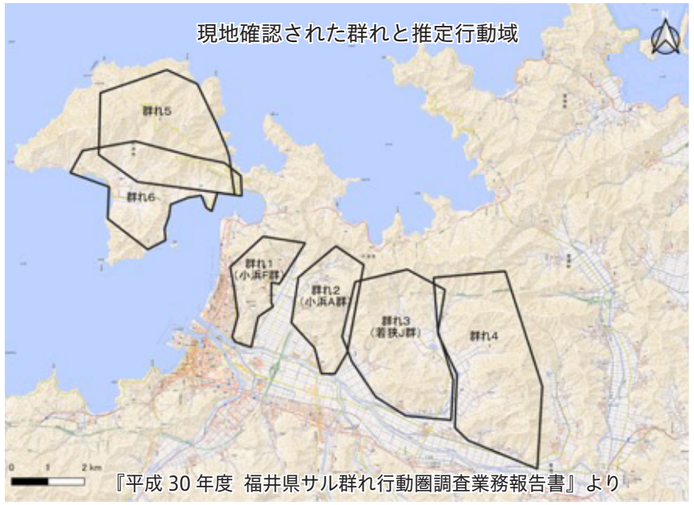
近年、シカやイノシシによる農作物被害は減少傾向にありますが、依然としてサルによる家庭菜園や家屋への侵入などが報告されており、農村部に限らず市街地への出没が見られるようになりました。

サルによる被害を防止するために、サルのことを知り、地域の人の力を合わせて、集落全体で被害防止に取り組みましょう。

県では、サルによる農業被害が継続的に発生していることから、対策や捕獲手法を検討するため、県内の群れの行動圏調査を実施しています。昨年度は本市において調査が行われました。

事前の調査では、左図の地域には6つの群れが存在していることが分かりました。このうち3群（群れ1～3）の個体に発信器を付けて追跡調査をしたところ、いずれの群れも30～40頭の規模で、山裾を移動して集落内へ出没していることが分かりました。また、集落内では放棄された作物やカキなどを食べる様子が頻繁に確認されました。

市では、調査結果を基に効果的な捕獲などに努めていきます。各集落においても、放棄作物や果樹などを取り除くなど、被害防除の意識を高めて対策に取り組んでいきましょう。



『平成30年度 福井県サル群れ行動圏調査業務報告書』より

市街地に出没したときの対処法

小浜・雲浜地区の市街地にもサルの出没が増えています。市街地は住居が密集しており対策は難しいですが、次のようなことに対処して、被害を未然に防ぎましょう。

- 戸締りをしっかりする。引き戸は開けられる場合があるので鍵をかけておく
- 餌をあげない、見せない
- サルとの距離があり、人を見て逃げる場合は大きな声や音を出して追い払う
- 逃げずに威嚇してくるサルには、興奮させないために、走らず後ずさりしてその場をゆっくり離れる
- 小学生はできるだけ集団で登下校する

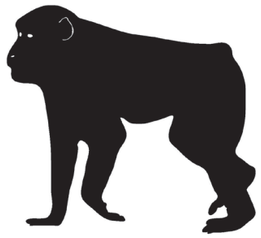
福井県サル出没情報共有システム

県では、地域のサルの出没情報を集約して公開しています。また、ユーザー登録すると目撃情報を入手することができます。https://saru.perf.fukui.g.jp

ニホンザルはどのような生き物でしょうか。生態や特徴などを知り、正しい知識で対策に生かしましょう。

■生態

- ▶とても賢く学習能力が高い動物
- ▶聴覚、嗅覚、視覚は人間と同程度
- ▶寿命は20～25年程度
- ▶日の出から日没までの間に活動し、夜間は行動しない
- ▶メスとその子どもを中心に群れを構成し、10数頭から100頭程度で行動
- ▶オスは大きくなると群れから離れて別の群れに入ったり、離れザルになったりする



■食べ物の嗜好（しこう）

- ▶雑食性で主に木の実や芽、種子、昆虫などを食べる
- ▶好きなものはイモ類・豆類・キノコ類・トウモロコシ・カボチャ・カキ・クリ・ミカンなどの鮮度が高いもの
- ▶嫌いなものはトウガラシなど辛いもの

※農作物を食べることで、集落内や農地の野菜や果物がおいしく、栄養価が高いことを学び、繰り返し田や畑に作物を食べにきます

■繁殖

- ▶交尾期は年1回で秋から冬、出産期は春から夏
- ▶約3年に1回、1頭を出産。近年は農作物などを食べて栄養状態が良いため、毎年出産することもある

［地域で取り組むサル対策］

① 引き寄せる原因となるものをなくす

・収穫しない果樹の伐採。伐採できない場合は、収穫しやすい高さに枝を切る

・集落内に野菜くずを置いておかない

② 侵入防止柵の設置

地域の実情に応じて電気柵や金網柵（天井部含む）で農地を囲う

※集落で電気柵の設置に取り組む場合は補助制度がありますので、問い合わせてください

③ 追い払い

サルは追い払ってくる人や集落は危険だと学習する一方で、追い払われなければ安全だと認識するため、サルが出没したら必ず追い払うようにする

写真上／侵入防止柵を設置している様子　写真右上／集落に設置された侵入防止柵　写真右／電気柵設置のための講習会

［市が実施しているサル対策］

① 大型捕獲おりの設置

被害が大きい地域に継続して大型おりを設置してサルを群れで捕獲

② 小型捕獲おりの設置

区長や農家組合長からの設置申請により、被害状況の聞き取りや現場を確認したうえで、小型おりを設置

③ 追い払い花火の販売

サルの追い払いに適した花火の購入を補助

サル群れの行動圏調査

市では、群れごとの行動範囲を明らかにし、被害対策や捕獲方法についての検討を目的に実施しています

※平成30年度は県において、内外海・国富・宮川地区で実施。本年度からは市が実施主体となり、小浜・今富・口名田・中名田・加斗地区で、来年度は遠敷・松永地区で実施予定